

## (11) シクラメン

### ア 各病害虫の防除

萎凋病

炭疽病

苗立枯病

灰色かび病

軟腐病

葉腐細菌病

ミカンキイロアザミウマ

キンケクチフトゾウムシ

ネコブセンチュウ類

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### 萎凋病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 古い種箱、用土、鉢用土、鉢などは、蒸気、薬剤等で消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
  - 2 健全株から採種する。
  - 3 多肥栽培を避ける。
  - 4 発病株や用土等は直ちに処分する。
- ※越夏後、加湿初期、開花期に多い。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病のおそれのあるとき又は少数の鉢に発病し始めた時は、薬剤をかん注する。
- 2 薬剤により土壌消毒を行う。

### 炭疽病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 黄化葉を摘除し、株を健全に保つ。
- 2 発病株や用土等は直ちに処分する。
- 3 底面給水でかん水し、葉面にはかん水しない。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(散布)する。

### 苗立枯病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 萎凋病に準じ、用土等を消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- ※蒸気消毒の場合、底辺を小さく高く堆積する。

### 灰色かび病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 黄化葉を摘除し、株を健全に保つ。
- 2 湿度低下に努める。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(散布)する。

### 軟腐病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 萎凋病に準じ、用土等を消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 発病株や用土等は直ちに処分する。

### 葉腐細菌病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 萎凋病に準じ、用土等を消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 多肥栽培を避ける。
- 3 管理作業に使用するピンセットを消毒する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 植替え直後に薬剤を、葉柄基部に散布する。
- ※キノンドーは薬液による汚れが生ずるので、葉及び花卉にかからないようにする。

## ミカンキイロアザミウマ

---

・[共通防除の章のアザミウマ類の防除の項](#)を参照する。

(判断、防除に関する措置)

※えそ斑紋病のウイルスINSVを媒介する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張する。育苗期の被覆も有効である。ほぼ完全に侵入を阻止するには、目合い0.4mm以下の防虫ネットが必要である。
- 2 ほ場周辺の雑草を除去する。
- 3 粘着テープにより成虫を誘殺する。本種は特に青色に誘引される。
- 4 好んで花に寄生するので、花茎伸長期(10月上旬頃)までは、薬剤散布に先立って開花した花を除去する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
- ※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
- ※ミカンキイロアザミウマの生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
- 2 キルパーを用いた病害虫まん延防止([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」](#)を参照)([農薬登録情報](#))
  - 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

## キンケクチフトゾウムシ

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生を認めたら、薬剤を施用(散布)する。

## ネコブセンチュウ類

---

・([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項\(土壌病害等の土壌消毒\)](#)を参照)。

(耕種的・物理的防除)

- 1 古い種箱、箱用土、鉢用土を蒸気等で消毒する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(散布)する。